

# 小学校の運動会に関する史的考察

## —運動会の萌芽期にみる事例分析を通して—

浜 野 兼 一

### 序論

本論文は、運動会の萌芽期（明治7年から19年）にみる小学校の運動会および類似の行事の事例を踏まえ、小学校の運動会の実施状況、実施形態、教育的役割などの分析に基づいて、近代日本における小学校の運動会の成立過程や特質を明らかにしようとするものである。

明治期の小学校教育において、運動会という行事が明確に制度化されていたわけではない。このことから、運動会が明治期の小学校の教育活動においては、自然発生的に行われるようになった教科外教育活動の一つに過ぎないという見方もある。しかし、明治期の小学校教育が教科教育だけで成り立っていたわけではないことは周知の事実である。したがって、明治期における小学校教育の実態を解明するためには、教科外教育活動についても詳細な検討が必要となるのである。とりわけ運動会は、遠足や修学旅行などと並んで明治期の小学校の教科外教育活動において、極めて重要な教育的役割を果たしたと考えられる。つまり、運動会という行事が、教科教育では育むことのできない身体的鍛錬の陶冶という側面を担っていたと考えられるのである。

運動会の歴史に関する先行研究としては、山本信良・今野敏彦による『近代教育の天皇制イデオロギー —明治期学校行事の考察—』（昭和62年）がある。この研究では、明治期の運動会を天皇制イデオロギーという視点から考察している。小学校の運動会についても、事例に基づいて詳細な検討がなされているが、考察対象の時期が明治10年代から30年代となっている。また、佐藤秀夫は『日本の教育課題5（学校行事を見直す）』（平成14年）において、明治期の運動会の史的変遷を実証的に跡付けている。しかしながら、本論文で取り上げる運動会の萌芽期における小学校の運動会については、豊富な史料は示されているものの、その内容についての詳細な検討がなされていない<sup>(1)</sup>。前述したように、明治期の小学校教育において、運動会という行事は教育上重要な役割を有していたと考えられる。このことから、運動会の萌芽期における小学校の運動会について考察することは、明治期における教科外教育活動の実態を明らかにするという点で意義があると考えられる。

そこで本論文では、明治期における教科外教育活動に関する史的研究の一環として、運動会の萌芽期における小学校の運動会の内容の一端を明らかにしてみたい。

なお、本論文では『大日本教育会雑誌』、東京大学、北海道大学の各学校沿革史、および長野県教育史、千葉県教育百年史などを主な史料として用いる。

本論文の内容としては、まずはじめに、運動会の成立過程において、小学校の運動会やそれに類似する行事がどのように普及していくのかについて跡付ける。次に、主な事例の中身を分析・検討することで、この時期における小学校の運動会の実施形態を明らかにする。さらに、運動会で実施された種目（運動競技会に限定する）の内容を検討するとともに、小学校教育における運動会の役割について考察する。

## 1 運動会の原初形態と小学校の運動会の成立過程

我が国における運動会の起源は、明治7（1874）年、当時海軍兵学寮の教壇に立っていたイギリス人教師の申し出により海軍兵学寮で行われた「競闘遊戯」に求められる<sup>(2)</sup>。『海軍兵学寮沿革』によると、この行事は次のような遊戯番附により実施されている<sup>(3)</sup>。

- 第一 十五歳以下ノ生徒三百「ヤード」ノ距離ヲ平駆スル事
- 第二 十五歳以上ノ生徒六百「ヤード」ノ距離ヲ平駆スル事
- 第三 十二歳以下ノ生徒百五十「ヤード」ノ距離ヲ平駆スル事
- 第四 長飛
- 第五 高飛
- 第六 玉投ケ
- 第七 二人連三脚駆
- 第八 十五歳以上ノ生徒十歳以上ノ生徒ヲ荷フテ二百「ヤード」ノ距離ヲ平駆スル事
- 第九 竿飛
- 第十 整列歩行
- 第十一 五十「ヤード」ノ距離ヲ目隠シニテ駆ケル事
- 第十二 飛倚
- 第十三 三百「ヤード」ノ距離ヲ限リテ見物人ニ競争セシムルコト（但兵学寮管轄ノモノニ限ルヘシ）
- 第十四 豚ノ走ルトキ其尾ヲ握ルコト、但豚ヲ放ツハ一度ニシテ其尾ヲ握ルニモ時間ヲ限ル
- 第十五 三飛毎ニ立ツ事
- 第十六 頭上ニ水桶ヲ戴キテ平駆スル事、但五十「ヤード」ノ距離内ニテ水ヲ持帰ルコト最速ニシテ其分量多キ者勝利トス
- 第十七 鶏卵二十箇ヲ「ヤード」毎ニ置キ平駆シテ之ヲ拾ハシムル事、但シ二百「ヤード」ノ距離内ニテ二十番ノ鶏卵ヨリ標柱ニ到ル間ヲ四十「ヤード」トス
- 第十八 先ニ豚ヲ放ツトキ誰モ其ノ尾ヲ握ル者アラサレハ今又之ヲ放チテ遊戯ノ大切リトス

（『海軍兵学寮沿革』第1巻にもとづいて作成）

遊戯番附の内容から、この行事が「競闘」と「遊戯」を融合したスポーツイベントであったという

ことがわかる。この「競闘遊戯」を嚆矢として、類似の行事が各学校においてもしだいに行われるようになるのである。例えば、札幌農学校は明治 11（1878）年に、「遊戯会」という行事を行っている。『北大百年史』によると、この「遊戯会」では、石投げ、玉投げ、芋拾い競争、幅跳び、目隠し競争などが行われ、数百人の見物人が集まったとされている<sup>(4)</sup>。その後、明治 15（1882）年の体操伝習所による「連合体操会」、翌 16 年には東京大学で予備門と合同による陸上運動会が行われた。なお、東京大学の陸上運動会では、競走、高飛び、砲丸投げ、柵飛び競走、三脚競走、慰め競走などの種目が実施された<sup>(5)</sup>。

このように明治 7 年から明治 10 年代の中ごろにかけて、運動会の原型にあたる行事が行われるようになったのである。なお、小学校については、この時期までに運動会やその類の行事が行われたことを示す史料は、今のところ確認できていない。しかし、明治 10 年代の後半になると、こうした状況に変化が訪れることになる。次に示すのは、明治 17 年から 19 年にかけて各学校で行われた運動会、および運動会に類する行事の主なものである。

表 1 明治 17 年から 19 年における運動会および関連行事の実施状況

年	備 考
17 年	・東京体育会が体操伝習所内において第三回秋季大演習会を催す <sup>(6)</sup> 。
18 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学及び予備門が競技運動会を本郷大学構内で開く<sup>(7)</sup>。</li> <li>・体操伝習所内において東京府体育奨励会が催される<sup>(8)</sup>。</li> <li>・東京体育会が体操伝習所内において秋季大演習会を催す<sup>(9)</sup>。</li> <li>・体操伝習所が体操演習を行う<sup>(10)</sup>。</li> <li>・東京府立師範学校同中学校生徒が体操伝習所内において体育会を開く<sup>(11)</sup>。</li> <li>・長野県の開智学校が生徒運動会を開く<sup>(12)</sup>。</li> <li>・東京体育会が体操伝習所内において秋季大演習会を催す<sup>(13)</sup>。</li> </ul>
19 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県の熊谷学校と浦和学校が生徒運動会を開く<sup>(14)</sup>。</li> <li>・広島県立学校生徒並びに小学校生徒が大運動会を催す<sup>(15)</sup>。</li> <li>・千葉県において、望陀・周准・天羽三郡の小学校による鹿野山体操大演習が実施される<sup>(16)</sup>。</li> <li>・東京体育会が体操伝習所内において春季大演習会を催す<sup>(17)</sup>。</li> <li>・群馬県尋常師範学校生徒および付属小学校生徒並びに東群馬南勢多高等小学校生徒が運動会を行う<sup>(18)</sup>。</li> <li>・茨城県において、連合諸学校（師範学校、中学校、水戸付近の各小学校）による秋季大運動会が開かれる<sup>(19)</sup>。</li> <li>・東京体育会秋季大演習会を催す<sup>(20)</sup>。</li> <li>・山口県において、縣鴻城体育会が第一回の運動会（尋常師範学校、付属小学校、吉敷郡北部十小学校、私立黒城塾が参加）を開く<sup>(21)</sup>。</li> <li>・群馬県の山田郡が第二回の小学生徒運動会を挙げる<sup>(22)</sup>。</li> <li>・東京府下豊島郡において公私立小学校の大運動会が催される<sup>(23)</sup>。</li> <li>・鎌倉郡の小学校生徒が運動会を行う<sup>(24)</sup>。</li> </ul>

（下線を付した事例は小学校生徒が参加したものである。）

上記の表から、明治 18 年までは、主として中等教育機関以上の学校で運動会やそれに類する行事

が行われていたことがわかる。また、行事の開催にあたって、体操伝習所が密接に関わっているという点も指摘できる。なお、明治18年に体操伝習所が行った「体操演習」という行事に着目してみると、体操伝習所の史料（『体操伝習所一覧』）に、「体操伝習所ニ於テハ毎学期一回文部省所轄東京各学校ノ学生生徒（東京女子師範学校生徒ヲ除ク）ヲ会シテ体操大演習ヲ施行スルコトアルヘシ」<sup>(25)</sup>が確認できる。

表1において小学校が参加した運動会に目を向けると、明治17、18年の2年間で2事例だったものが、明治19年に至り9事例と大幅に増加している。こうした点を踏まえると、明治19年は小学校に運動会が普及し始める起点と考えることができるであろう。このことから、小学校も含めて考えた場合、明治7年から明治19年までが、運動会の萌芽期と考えられるのである。これに加えて、明治18、19年は小学校における運動会の原初形態を知る上でも重要な時期になるといえよう。

## 2 事例にみる実施形態

前節で確認したように、小学校においては明治10年代の終わりに至り、運動会およびそれに類する行事が少なからず見られるようになる。では、この時期において小学校の運動会はどのような形態で行われていたのだろうか。当時の実施形態は「単独開催」「小学校の合同」「各学校の合同」に大別される。次に示すのが、その代表的な事例である。

### 事例1

#### ○生徒運動会<sup>(26)</sup>

去る三日の事とか校長の催しにて生徒遠行運動あり 今其の大略を記さんに当日午前九時ごろ一同校庭に参集し各列を正し之れを二列に聯隊して更に五分し紅白紫黄緑の分隊旗を立て歩々足を整へて進む（中略＝引用者）市中を通行することなれば父兄は皆門に迎へて喜悅し此より数時間運動の後ち岡宮社内に休憩し或ひは体操を演し或ひは競争を試み或ひは擬戦をなし或ひは球なげを催ふすありて師弟共に充分の快を尽されたり 右了りて各生へ柿の実を分与し年長を撰て隊をなし柿を投じて之れを競取せしハー丁の観を呈したり（以下省略＝引用者）。

### 事例2

#### ○東京府体育奨励会<sup>(27)</sup>

同府にては近来切りに体育の方法に配慮せらるゝとの事は□聞及びし処なる此程各公立小学校の生徒を適宜招集して体育奨励会なるものを起し本月四日第一日曜日に其第一回を一ツ橋外なる文部省所轄体操伝習所に於て施行せられたり当日は渡辺府知事渡辺書記官を始め学務課員には早朝より同所に臨場せられて諸事の手配をなし午前十時頃には予て招集に応じたる府下各公立小学校の教員生徒等無慮七八百名の多きに達しさしにも広き伝習所の運動場も殆んど立錫の地なき有様にて各生徒今日は我こそ一番に優等の賞に与かりて衆人の喝采を得んものをと勇み立ちて早已に快活の氣象を呈し居たり（以下省略＝引用者）。

### 事例3

○広島県立学校生徒並小学校生徒大運動会方法<sup>(28)</sup>

- 一 会場は広島鎮□練兵場とす
- 一 会日は二月第三日曜日午前第七時三十分参集同第八時より始む
- 一 運動遊戯者の衣服は洋服又は可及的窄袖を用ひしむ
- 一 運動遊戯者の履物は靴若クは草履とす
- 一 運動遊戯せしむべき生徒は県立学校生徒三百五十七人小学初等科第二級以上の生徒千三百四十七人とす
- 一 運動遊戯をなさゝる生徒□は参観場を設けて縦覧せしむ  
但参観場は旗を以て各校の区域を限る
- 一 本会役員を定むる事左の如し  
司令、審査長一人 同副二人 司令十二人 審査二十四人 生徒監督十二人  
(以下省略＝引用者)

事例1の「生徒運動会」は、一同が列をなして目的地に向かい到着した場所で体操、競争、擬戦、球なげなどを行う単独開催の遠行運動であった。当時は、このような遠足と運動会の内容を併せ持った行事を運動会と称する場合も少なくなかったのである。前節の表1で示した「鎌倉郡の小学校生徒運動会（明治19年）」もこの運動会に類する行事である。

事例2の「東京府体育奨励会」は、東京府下の各公立小学校が合同で行う運動会であった。なお、これに似た行事として、前節の表1で示した「群馬県山田郡の第二回小学生徒運動会（明治19年）」がある。これらは、ある地域の小学校が合同で行った行事である。しかし、運動会の萌芽期にあっては、こうした小学校のみの合同という形態はそれほど多くなかった。

事例3の「広島県立学校生徒並小学校生徒大運動会」は、県立学校と小学校が合同で実施した運動会である。前節の表1に示した群馬県、茨城県、山口県の事例もこれに類する行事である。このように、当時は各学校が合同で行う形態もみられたのである。

## 3 運動会で実施された種目にみる小学校の運動会の特質と、教科「体操」との関連について

ここでは、運動会の萌芽期における小学校の運動会の実態をとらえるために、当時の小学校が参加した運動会で実施された種目について検討してみたい。

なお、検討する種目については、いわゆる運動競技会で行われたものに限定する（遠足的行事は除く）。小学校が参加した運動会で行われた種目を比較検討することで、小学校の運動会における種目の内容や特徴を明らかにするとともに、教科「体操」との関連にも言及する。

次に示すのが、「東京府体育奨励会」、「広島県立学校生徒並びに小学校生徒の大運動会」、「東京府

下豊島郡公私立小学校大運動会」,「山口県の縣鴻城体育会による第一回の運動会」で行われた種目の内容である<sup>(29)</sup>。

#### 種目例1「東京府体育奨励会」

数百名の生徒は素と烏合の生徒なれば体操術を能くするものあり能くせざるものありて各まち、なれば先之を三組に分ちて第一を競走旗拾第二を徒手体操第三を亜鈴体操の三部となし（中略＝引用者）その他番外に毬投フットボール等の遊戯をなさしめ（以下省略＝引用者）。

#### 種目例2「広島県立学校生徒並びに小学校生徒の大運動会」

##### 県立学校生徒の部

自八時至八時卅分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           亜鈴体操百五十人 棍棒体操三十人         </div>	自八時卅分至九時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           球竿体操百五十人 木環体操六十人         </div>
自九時至十時	兵式体操四十五人	自十時至十一時	競走旗取三百五十七人
自十一時至十二時	障碍物飛越四十五人		

競走旗取は総人員を身長の順序に依り凡十組と分ち順次一組つゝ、行いしむ

賞与は其距離二百ヤードの所に異色の旗五本を一行に並植し奪取の先後に従ひ一等賞より順次三等賞を与ふ

但数人同時に一旗に触れ先後の別なきときは共に相当賞を与ふるものとす

（以下略＝引用者）

##### 小学校生徒の部

自八時至十時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           徒手体操七百人 亜鈴体操四百人 球竿体操二百人         </div>	自十時至十一時	競走旗取千三百四十七人
--------	--	---------	-------------

競走旗取は総人員を身長の順序に依り凡六十六組に分ち一組二十人つゝ、順序に之を行いしむ

賞与は其距離百ヤードの処に異色の旗五本を並植し奪取の先後に従ひ一等賞より順次三等賞を与ふ

（以下略＝引用者）

#### 種目例3「東京府下豊島郡公私立小学校大運動会」

午前十時よりフットボールを行ひ終らんとするとき府知事高崎五六君学務課長庵地訓師範学校長和久正辰君高等師範学校坪井玄道氏等の来場あり一同敬禮をなし生徒千五百人矯正術を試む（司令者は武田君なり）次に特別にな峡田根岸両校生徒の亜鈴体操を府知事の前に施行したるは両校生徒の榮譽同教員諸君の面目と謂ふへし夫れより順次左の遊戯をなし（旗拾、競走、二人三脚競走、徒競走、徒手、亜鈴体操、綱引等）賞を得るもの五百余人終りて一同山の西方に整列して写真を取り退散せしは午後四時なり（以下略＝引用者）

種目例 4「山口県の縣鴻城体育会による第一回の運動会」

- |        |             |        |             |
|--------|-------------|--------|-------------|
| 一 徒手体操 | 風琴合奏 男子師範生徒 | 一 徒手体操 | 風琴合奏 女子師範生徒 |
| 一 亜鈴体操 |             | 一 豆囊   |             |
| 一 矯正術  | 男子付属生徒      | 一 遊戲   | 風琴合奏 女子付属生徒 |

右了りて一同は兼て準備せる運動場に集まる（場内整理の図、臨時役割等は略す）運動生  
五百五十名を身長に応し十三分隊に分ち左の順序に因り運動を始む時午前九時三十分なり

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 一 軽体操 柔軟演習     | 九 幅飛競争 賞品を付す |
| 二 旗拾競走 賞品を付す   | 一〇 徒競走 賞品を付す |
| 三 囊脚競走 賞品を付す   | 一一 旗奪競争      |
| 四 二人三脚競走 賞品を付す | 一二 人馬競争      |
| 五 旗戻競走         | 此間に賞品授与の式を行ふ |
| 六 盲目棒打         | 一三 フートボール    |
| 七 圈線旗取競走       | 一四 綱引        |
| 八 高飛競争 賞品を付す   |              |

上記で示した4事例の種目の内容を、実施年、対象、種目総数、小学校生徒対象の種目という観点から整理したのが表2である。

表2 「種目例（1～4）の比較」

	実施年	対象	種目総数	小学校生徒対象の種目
東京府体育奨励会	明治18年	小学校	5*	競走旗拾、徒手体操、亜鈴体操、毬投フートボール等
広島県立学校生徒・小学校生徒の大運動会	明治19年	小学校及び県立学校	11	徒手体操、亜鈴体操、球竿体操、競走旗取
東京府下豊島郡公私立小学校大運動会	明治19年	小学校	8*	フートボール、旗拾、競走二人三脚競走、徒競走、徒手体操、亜鈴体操、綱引等
山口県の縣鴻城体育会による第一回の運動会	明治19年	師範学校 小学校、私塾	21	矯正術、遊戲、軽体操、旗拾競走、囊脚競走、二人三脚競走、圈線旗取競走、徒競走*

\* 東京府体育奨励会および東京府下豊島郡公私立小学校大運動会の種目総数は不詳である。また、山口県の縣鴻城体育会における小学校生徒対象の種目については、当該史料の記述および運動成績統計の年齢に基づいているが、表に示した種目以外のものについては、小学校生徒の参加・不参加が不明である。

表2にまとめた事例と、次に示す「東京大学及び予備門の競技運動会（明治18年）」で行われた種

目を比較してみると、ある特徴を見出すことができる。

○「東京大学及び予備門の競技運動会」

第一 百ヤルド競走	第十 来客競走
第二 クリケット玉抛ケ方	第十一 飛走
第三 百ヤルド最後競走	第十二 杆飛
第四 高飛	第十三 最後ノ飛走
第五 二百二十ヤルド競走	第十四 槌ノ抛ケ方
第六 大砲玉抛ケ方	第十五 八百八十ヤルド競走
第七 二百二十ヤルド最後競走	第十六 教員競走
第八 長飛	第十七 一足競走
第九 四百四十ヤルド競走	第十八 慰ミ競走

東京大学及び予備門の競技運動会には体操関連種目が見られないが、小学校対象の種目には体操関連種目が必ず含まれているのである。また、体操や遊戯が種目の中心になっている東京府体育奨励会および広島県の事例と東京府豊島郡、山口県の事例も微妙に内容が異なっている。つまり、東京府豊島郡や山口県の事例では競争的種目が増加しているのである。東京府体育奨励会が明治18年、広島県の事例が明治19年春の実施という点と、東京府豊島郡、山口県の事例がいずれも明治19年秋の実施という点に目を向けてみると、東京府豊島郡と山口県の事例にみえる競争的種目の増加は、小学校の運動会における変化と推測することもできる。

次に、小学校の運動会における体操関連種目について考察する。先に示した史料の内容を検討してみると、体操関連種目については、前述した必ず行われているという点以外に注目すべきポイントがある。つまり、広島県、山口県の事例において「概ね運動、遊戯的種目より先に体操関連種目が行われている」のである。こうした点と、東京府豊島郡の事例にみえる「府知事高崎五六君学務課長庵地訓師範学校長和久正辰君高等師範学校坪井玄道氏等の来場あり一同敬禮をなし生徒千五百人矯正術を試む（司令者は武田君なり）次に特別にな峽田根岸両校生徒の亜鈴体操を府知事の前に施行したるは両校生徒の栄誉同教員諸君の面目と謂ふへし」に着目してみると、体操関連種目がある意図のもとに実施されたのではないかという疑問がでてくる。

例えば、第1節の表1に記した群馬県の山田郡においては、「是迄体育上の事は知識練磨に於て副二<sup>ママ</sup>的の学科として教育上余力を用ひさりしは従前授業者の通観なりしか近頃大に其然らざるを知り本部に於て年々秋季に小学校の運動会を行ふ」としており、小学校における体育や身体鍛錬への認識の高まりという状況がみてとれる。

重要なのは、小学校で運動会が行われるようになる時期と、政府がそれまで副次的であった「体操」を正課に位置づけようとした時期が重なるということである。次に示すのが、「小学校ノ学科及其程



度（明治19年）」における体操関連の記述である<sup>(30)</sup>。

#### 小学校ノ学科及其程度

第二条 尋常小学校ノ学科ハ修身読書作文習字算術体操トス（中略＝引用者）

第三条 高等小学校ノ学科ハ修身読書作文習字算術地理歴史理科図画唱歌体操裁縫女児トス（中略＝引用者）

第十条 各学科ノ程度左ノ如シ

（中略＝引用者）

体操 体操ハ幼年ノ児童ニハ遊戯稍長シタル児童ニハ軽体操男児ニハ隊列運動ヲ交フ

（以下略＝引用者）

「小学校ノ学科及其程度」における「体操」の規定には、小学校において知育・徳育に遅れをとっていた体育教育の推進という姿勢が読み取れる。この規定以前において、体操が実際にはあまり行われていなかったという背景を勘案すると、体育教育の推進に運動会という行事が深く関わっているのはほぼ間違いない。つまり、小学校の運動会における体操関連種目の実施は、その後の教科「体操」の定着へつながったと考えられるのである。

## 結論

以上本論文では、運動会の萌芽期（明治7年から19年）にみる小学校の運動会や類似の行事の事例に基づいて、小学校の運動会の実施状況、実施形態、教育的役割などを分析し、近代日本における小学校の運動会の成立過程や特質について考察してきた。

第一節では、初期の運動会の成立過程において、その実施に体操伝習所が深く関わっていたということがわかった。また、明治17年には皆無であった小学校参加の運動会が、明治18年ごろからみられるようになり、明治19年には大幅に増加したということが明らかとなった。

また、第二節では、運動会の事例分析に基づいて運動会の萌芽期における小学校の運動会の諸形態（単独開催：遠足的運動会、小学校の合同開催：競技運動会、各学校の合同開催：競技運動会）を跡付けることができた。

さらに、第三節では、運動会で実施された種目に着目し、主な事例の種目の内容を検討した。これにより、小学校の運動会の種目の特徴を見出すことができた。また、本節では小学校の運動会で実施された体操関連種目を手がかりに、運動会と教科「体操」の関連性について解明を試みた。

以上の考察結果から、次の三点を指摘することができる。

- ①運動会の萌芽期における小学校の運動会は、遊戯・身体鍛練・競争という内容を有していた。
- ②小学校の運動会における体操関連種目の実施は、その後の小学校における教科「体操」の定着と深い関わりがある。

③小学校の運動会が三つの実施形態に分類されることから、この時期は、小学校の運動会が分化的に普及した段階といえる。

なお、今後は明治20年代以降における運動会の実態について、中等教育、高等教育の各学校段階も視野に入れた研究を課題としたい。

註(1) 佐藤秀夫編『日本の教育課題5（学校行事を見直す）』平成14年12月 pp.245-254。

(2) 『運動会事典』 双文社 pp.1-2。

(3) 海軍兵学校『海軍兵学寮沿革』第1巻 大正8年。

(4) 北海道大学『北大百年史 通説』昭和57年 p.64。

(5) 東京大学『東京大学百年史 通史1』昭和59年 p.908。

(6) 『大日本教育会雑誌』第14号 明治17年12月 p.47。

(7) 『同前書』第20号 明治18年6月 p.49。

(8) 『同前書』第24号 明治18年10月 p.74。

(9) 『同前書』第25号 明治18年11月 p.80。

(10) 『同前書』第27号 明治19年1月 p.68。

(11) 『同前書』69頁。

(12) 『長野県教育史』第10巻 資料編4 昭和50年 p.652。

(13) 前掲『大日本教育会雑誌』第27号 p.69。

(14) 埼玉私立教育会『埼玉教育雑誌』第30号 明治19年。

(15) 前掲『大日本教育会雑誌』第29号 p.69。

(16) 『千葉県教育百年史』第3巻 資料編 昭和46年 p.342。

(17) 前掲『大日本教育会雑誌』第31号 p.57。

(18) 『同前書』第44号 明治19年11月 pp.59-60。

(19) 『同前書』pp.61-62。

(20) 『同前書』p.66。

(21) 『同前書』第45号 明治19年12月 p.40。

(22) 『同前書』第46号 明治19年12月 p.63。

(23) 『同前書』p.71。

(24) 『同前書』第49号 明治20年2月 p.31。

(25) 体操伝習所『体操伝習所一覽』明治17年、明治18年 p.34。

(26) 『長野県教育史』第10巻 資料編4 昭和50年 p.652。

(27) 前掲『大日本教育会雑誌』第24号 pp.74-75。

(28) 『同前書』第29号 明治19年3月 pp.69-70。

(29) 本節で示した4つの事例は、『大日本教育会雑誌』第24号、第29号、第45号、第46号の各号に基づく。

(30) 『明治以降教育制度発達史 第三巻』昭和13年9月 pp.39-41。